

1. かがわ自主ぼう春季研修会の開催模様

(1) 地震考古学者 寒川 旭先生御講演要旨 (2008・03・23 於高松サンプォート)

演題：地震考古学からみた南海地震

日本は地殻変動によって作られた島国である。大きな地震は、ある程度決まった場所から繰り返し発生して、地域によって揺れ方や被害のタイプが異なる。自分たちの生活圏について、過去にどんな地震があって、どんなことが起きたかを知っておくことが、将来の地震に備えるために大切である。

日本は世界有数の地震国であるが、過去千数百年に及ぶ文字記録が残されており、この間に起きた地震の年月日や被害を知ることができる。これほど古くまで遡って地震の記録を詳しくたどれる国土は世界でも稀である。

1988年に地震考古学が誕生し、この研究によって、文字記録の空白が埋まり、地震災害を具体的に把握出来るようになった。

また、大きな地震が起きるたびに、さまざまな人間ドラマが生まれている。愛娘を地震で失った山内一豊夫妻、二度も被災して肝をつぶした豊臣秀吉等、彼らの悲しみや恐怖は、時代を超えて通じ合うものがある。私たちの国土では、さまざまな時代に起きた地震もまた、当時の社会に大きな影響を与えてきた。

次に来る南海地震は、東南海・東海地震、関東地震とともに一斉に発生することも考えられ、関東地方から九州まで広域被害がおこり、他の県からの救援は望めないかも。さらに太平洋側の県は津波で甚大な被害をこうむるかも。自分の命は自分で守る、自分たちの地域は自分たちで守るという自助・共助の仕組み作りに努力してほしいと力説していただいた。

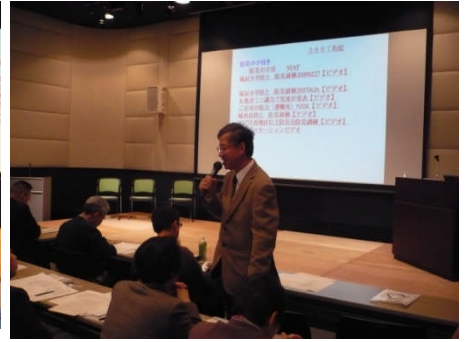
プレートの動き、活断層や液状化現象のメカニズムなどの専門知識を得意のイラストを使って、非常にわかりやすく解説していただき、本当にありがとうございました。



寒川先生講演模様



会場での質疑応答の様様



ご出席の会員の方々から熱心な質問が相次ぎ、インタビューに応じていただいた方々から非常にわかりやすかったとのコメントもいただき、寒川先生からは熱気にあふれた研修会で素晴らしいとの言葉があり、会を盛り上げていただいた皆様に事務局一同感謝いたします。

会場からの質問事項のお知らせ

製造メーカーによって、デザイン、品質、価格など多少違いがあるかと思いますが、参考として紹介します。

- 簡易トイレ便座3、200円/個 200~300個まとめると3割引
- ヘルメット 1,440円/個または990円/個 10個単位で1割引、100個単位で1.5割引
- ダンボール製タンス補強

ダンボール製につきましては、県内の某企業により、特注品を試作して500~1,000個単位でいくらになるのか、次号にてお知らせします。

各種ヘルメット



トイレのボックスと便座は別売



2. 香川県防災局から異動される方々にコメントをいただきました。

防災局次長 山口 繁康様から

皆様こんにちは。私は、本年3月31日付けで香川県を退職した元防災局次長の山口と申します。

当協議会は設立されてから早くも1年がたちました。この間の皆様方の活動ぶりは言うまでもなく、ただただ感心することしきりです。また会報「防災・減災の輪」もインターネットで楽しく読ませていただいております。

県内の自主防災組織の組織率は、平成19年4月1日現在で56.1%と全国平均に比べ10ポイントほど低く、まだまだ輪を広げていく必要があります。どうか皆様方におかれましては、今後とも活発に活動され組織率の拡大に貢献されますよう、よろしくお願いいたします。



防災局危機管理課課長補佐 河井 啓司様から

川西地区自主防災会の活動が取り上げられた、NHKの「難問解決! ご近所の底力」は、私の好きな番組の一つです。

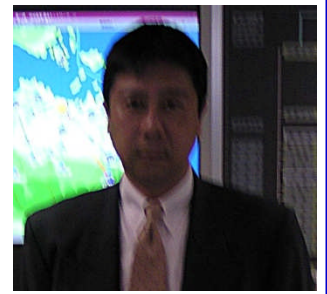
生活の足の確保や野良猫対策のような身近な問題から、高齢化や地球温暖化対策といった社会的な問題まで、様々な課題が、ご近所の協力で見事に解決されていく様子に、常に感心したり共感したりしています。

心配される南海地震、そして大型化する台風。大災害への対策でも、ご近所の助け合い、地域の協力が、大きな解決策になるものと考えています。

このような中、地域の防災対策に取り組む「かがわ自主防連絡協議会」の皆様が、地域の枠を越えて協働し、共助の輪を広げようとされていることは、地域の防災力を強化するうえで、どのような取り組みにも勝っており、また、いずれ、全国的にも注目されるものと信じています。

協議会が発足して約1年で参加団体が倍増したと伺いましたが、今後、一層、参加が増え、県内のすべての市や町に広がり、災害に対する大きな力となっていくよう、そして、防災対策を進める中で、地域の一体感が一層強まり、様々な分野での地域内の協働が進みますよう、心から祈念いたします。

このたび、防災局を離れることになりましたが、皆様のこれまでのご尽力と県の防災行政へのご協力に感謝申し上げますとともに、協議会の益々のご発展をお祈りいたします。ほんとうにありがとうございました。



防災局危機管理課主任主事 宮本 秀和様から

居安思危 思則有備 有備無患
安きに居りて危うきを思う
思えばすなわち備えあり
備えあれば患（うれ）い無し

出典：春秋左氏傳（しゅんじゅうさしでん）
孔子の編纂と伝えられる歴史書『春秋』の代表的な注釈書の1つ

これは、群馬大学大学院片田敏孝教授が、昨年四国防災トップセミナーの基調講演の締めくくりに、防災にかかわる人達へとして引用した一節です。

「備えあれば患い無し」という言葉はよく耳にしますが、そこに至るには、まず普段から危機をイメージすることが一番重要です（居安思危）。それができてはじめて具体的な行動をとることができ（思則有備）、万一、危機が起こったときに万全な対応をとることができます（有備無患）。

南海地震は必ず起こります。そのためには、まず災害が発生したときにどのような被害がでるのかイメージし、そして被害が発生すればどう行動すればいいのか考える必要があります。

川西地区自主防災会は、その現実に正面から向き合い、訓練や資機材の整備などこの3段階論法のとおり実践し、来るべきときに日々備えておられます。

また、昨年設立した「かがわ自主防連絡協議会」は、地域・市町の枠を越えて県内の自主防災組織にも共助の輪を広げられ、近い将来、全国的にも注目されると確信しております。

最後になりましたが、協議会の今後益々の発展と皆様のご活躍を心からお祈り申し上げます。ありがとうございました。



3. わが街の紹介 (丸亀市郡家校区地域づくり推進協議会)



1. 地域の概要

私たちの郡家校区は、丸亀市の中心街から南方5Kmに位置し、郡家町・三条町の地域を占め、12のため池がある平坦地で、面積5.3平方Km、世帯数約4,700、人口12,900人が居住しています。郡家の地名が示すように歴史的には、律令時代に那珂郡の司庁所在地であり、地域内には三条、八反地、地頭や領家の様に条里制、荘園制での地名が散見されます。昭和29年丸亀市と合併し、当時は世帯数約800、人口約4,000人の純農村地域でありました。昭和56年頃より、この地域が都市計画の無指定地域であった為に、宅地造成が進み、農地の減少と兼業農家の増加、また、また主要交通路沿いの商業化や新興住宅団地の増加などで都市郊外化されました。人口も急増して、新来者と旧来居住者の比率は2:1の現況となっています。

なお、平成4年に四国横断自動車道が校区を横断して建設され、交通状況は大きく変化すると共に地域の一体感や防犯・防災面でも多大の影響を及ぼしています。

2. 地域の課題

急激な宅地造成や住宅団地の増加は、転入世帯と人口の急増となり都市化の波によって、かつての地域共同体は失われ、地域社会における住民の連帯感は希薄になりました。この事象は自治会や地域諸団体への未加入をはじめ、新旧居住者の一体感の欠如や青少年育成にも関心の低い状況を引き起し、地域社会への関心の低さとなっています。

3. 組織

我が郡家校区は平成7年1月8日、地域の6関係機関、17諸団体を持って結成され、その組織は、総務部、人権擁護部、地域環境部、地域安全部、社会福祉部、保健増進部、体育増強部の7部門で構成されています。

4. 新年度の活動

(1) 活動方針

みんなが主役で信頼と安心の故郷づくり

(2) 重点事業

- ▣ 組織未加入者の加入促進
- ▣ 世代交流とふれあいの社会福祉
- ▣ 地域環境対策の推進
- ▣ 安全防犯・諸活動の推進
- ▣ 楽しい健康づくりと教育文化活動の推進